

第 185 回東京医科大学医学会総会

誌上発表 : 1~22

1. Efficacy of olfactory and pareidolia tests compared with that of indicative biomarkers in diagnosis of dementia with Lewy bodies

(高齢診療科)

○櫻井 周、稲川 雄太、清水聰一郎
竹野下尚人、都河 明人、廣瀬 大輔
櫻井 博文、羽生 春夫

Although olfactory decline and visual hallucinations are useful in distinguishing dementia with Lewy bodies (DLB) from Alzheimer's disease (AD) in a clinical setting, neither is easy to evaluate quantitatively. The pareidolia test is used for objective quantification and evaluation of visual hallucinations, the Odor Stick Identification Test for the Japanese (OSIT-J[®]) is used to objectively quantify olfactory decline. The present study investigated the efficacy of these olfactory and pareidolia tests in differentiating AD from DLB. Their usefulness was then compared with that of the indicative biomarkers in neuroimaging for a clinical diagnosis of DLB. A total of 24 probable DLB and 22 probable AD patients were enrolled. All underwent 4 diagnostic procedures : uptake of dopamine transporter in single photon emission computed tomography (DaT-SPECT) and meta-iodobenzylguanidine (MIBG) in myocardial scintigraphy, the pareidolia test, and OSIT-J[®]. The sensitivity, specificity, and accuracy of these methods in differentiating DLB from AD were compared. Sensitivity and specificity in differentiating DLB from

AD were 86% and 100% by the heart-to-mediastinum ratio of MIBG uptake ; 82% and 96% by the specific binding ratio on DaT-SPECT ; 77% and 67% by the combination of OSIT-J[®] and pareidolia test scores ; 73% and 62% by the pareidolia test scores ; and 77% and 58% by the OSIT-J[®] scores, respectively. The present results suggest that the pareidolia and OSIT-J[®] tests should be considered before resorting to nuclear neuroimaging in the diagnosis of DLB.

2. 小脳橋角部類上皮腫に対する手術アプローチの重要性 ~50 症例の検討~

(脳神経外科)

○坂本 広喜、一桝 倫生、松島 健
中島 伸幸、伊澤 仁之、河野 道宏

【目的】 小脳橋角部類上皮腫の手術において、再発予防の観点から十分な被膜切除を重視している。被膜切除と神経機能温存を両立する為には手術アプローチの選択が重要と考えている。手術アプローチ・摘出率・術後神経症状の改善・神経機能温存率・再発率について後方視的に検証し、当科の手術成績を報告する。

【対象・方法】 対象は 1999 年から 2018 年に手術を行った小脳橋角部類上皮腫 50 例で、平均年齢は 38 歳で、男性 19 例・女性 31 例であった。手術アプローチは combined transpetrosal approach (CTPA) 26 例・lateral suboccipital approach (LSO) 17 例・anterior transpetrosal approach (ATP)+LSO 4 例・ATP 3 例で

あった。

【結果】 嚢胞内容物の平均摘出率は98%で、被膜の平均切除率は82%であった。顔面神経機能温存率は94%で、術前有効聴力は48例に認め、術後有効聴力温存率は90%であった。平均追跡期間61.7ヶ月で画像所見上6例に再増大を認めたが、再手術には至っていない。術前に見られた三叉神経痛は20例中全例で術後改善を認め、顔面痙攣は5例中全例で改善を認めた。

【結語】 我々の施設では小さい腫瘍には基本的にLSO、Meckel腔内進展があればATP、大きい腫瘍(多くの場合VII・VIII神経は腫瘍の背側を走行)はCTPA、sigmoid sinus(SS)が患側完全優位の場合はSS損傷のリスクを避けるべくATP+LSOを用いている。高い腫瘍の摘出率と神経温存率から、この手術アプローチの選択法は正当化されるものと考えられた。

3.

眼内リンパ腫における採血データ、硝子体中サイトカイン濃度を用いたクラスター解析

(眼科)

○坪田 欣也、臼井 嘉彦、後藤 浩

【緒言】 眼内リンパ腫は眼疾患の中で生命予後不良の疾患である。しかしながら、臨床経過を予測する因子の検討は十分ではない。本研究では諸検査で得られた結果を用いたクラスター解析により患者集団を細分化し、分類された患者集団間の臨床像を比較検討したので報告する。

【方法】 1999年4月から2015年2月までに東京医科大学病院眼科で眼内リンパ腫の診断に至り、3年以上の経過観察が可能であった40例(男性17例、女性23例、平均年齢65.7±9.7歳)を対象とした。眼内リンパ腫診断時の臨床情報(年齢、採血データ、硝子体中のIL-10とIL-6濃度、IL-10、IL-6比)を用いてクラスター解析を行い、その結果、分類された患者集団間の臨床像について診療録をもとに後ろ向きに比較検討した。

【結果】 クラスター解析によって患者集団は(1)高IL-10・低IgA・高白血球数群、(2)低IL-10・高IgA・低白血球数群の2群に分類された。(1)群は(2)群に比較して有意に生存率が低かった((1)

17%; (2) 65%; $p=0.03$)。一方、2群間の平均年齢((1) 63.3歳; (2) 65.6歳; $p=0.87$)、平均経過観察期間((1) 38.2か月; (2) 44.1か月; $p=0.59$)は差がみられなかった。

【結論】 採血データ、硝子体中のサイトカイン濃度を用いたクラスター解析によって眼内リンパ腫を2つのサブグループに分類することが可能であり、2群間の臨床像に差がみられた。採血データ、硝子体中のサイトカイン濃度から生命予後を予測できる可能性がある。

4.

多発性硬化症治療薬 Fingolimod は分子標的薬 Lapatinib との併用によって膵癌細胞株 BxPC-3 のアポトーシス様細胞死を誘導する

(医学部医学科5年)

○鈴木 董、小川 雅人

(大学院修士課程2年)

宮崎 誠也

(生化学分野)

風間 宏美、高野 直治、平本 正樹

宮澤 啓介

<目的> 多発性硬化症治療薬 Fingolimod (FTY) はスフィンゴシンの構造類似体であり、スフィンゴシン1リン酸受容体を介した免疫抑制作用の他に、スフィンゴシン代謝経路を介した抗腫瘍作用も報告されている。我々は以前に肺癌細胞株 A549 を用いて、FTY と分子標的薬との併用によって抗腫瘍効果が増強されることを報告した。今回、5年生存率が最も低い膵癌に対するドラッグ・リポジショニングを念頭に、膵癌細胞株に対する併用効果を検証するとともに、細胞死の様式およびメカニズムについて解析を行った。

<方法> 膵癌細胞株 BxPC-3 および PANC-1 と、肺癌細胞株 A549 を解析に用いた。分子標的キナーゼ阻害薬として、A549 に対して顕著な効果を示した Lapatinib (Lap) および Sorafenib (Sor) に加え、Raf キナーゼ阻害薬 Dabrafenib (Dab) および Vemurafenib (Vem) を検討した。細胞生存率は CellTiter-Blue 試薬を用いて評価した。小胞体ストレス応答遺伝子 CHOP および BIM の定量 PCR および、小胞体タンパク質 Calreticulin の免疫染色によ